

午後0時59分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。8番、淵上清君。

○議員（8番 淵上 清君） 清風会の淵上清であります。

市長いよいよ1期目の仕上げの時期となりました。市長の目指す島おこし、まちづくりを、そこには通常3年連続しなければ困難と言われます。いわゆる1期目に前任者からの方向転換といえますか、自分の政策に向ける転換する作業、2期目には今であれば比田勝カラーをしっかりと出していく。そして3期目に完成を目指してやっていくということが言われています。

選挙時に声を大にして訴えられた政策は満足できそうでしょうか。私はその方向性、人間性については言うことはないと考えます。しかし、どうもサイドブレーキを引きながらの安全運転に終始しているようなさまに見えてなりません。

いずれにしても、その評価は次の選挙で市民が示すものだとすることを肝に銘じながら、市民が納得する積極性を期待しながら質問に入ります。

それでは、通告しておりました2点について質問いたします。

まず、1点目の日韓親善交流の促進策についてです。

朝鮮通信使の世界遺産登録なって2年、この慶事を対馬の振興策に生かそうと努力されているようですが、記憶遺産は文字どおり形にしてアピールする難しさがあり、苦慮されているように見えます。通信使資料館の計画もあるようですけれども、それに関連して提案を含めて、2項目の具体策について質問をいたします。

1項目めは、朝鮮通信使復元船の来島に対する対応策でございます。

御承知のように、韓国政府機関の韓国海洋文化研究所において建造された復元船は、試験航海も順調に成功されたようで、当初は来年に予定されていた対馬訪問は、急遽とし8月の厳原港まつりに向けて入港されることになったようです。その対応策については、今議会に補正予算として上程されていますから、今年度は救急の対応策として、私はこれでよしと考えます。

今回の質問は、来年以降、韓国サイドが計画しております、対馬寄港後に瀬戸内海の各寄港地を経由して大阪までの朝鮮通信使再現事業に対する対馬市の対応策についてです。

韓国サイドでは、国の事業として復元船を完成させ、釜山文化財団が再現事業の主体になるようですが、日本側の中心となるべき対馬市として、その対応策は大丈夫でしょうか。朝鮮通信使縁地連絡協議会との連携はもちろんですが、私は、日本側も国の事業として、その対応策に取り組むべきだと考えます。日韓友好交流の促進に邁進してほしいと考えるわけです。対馬市としての考え方をお聞かせください。

次に、2項目めの対馬側からの交流促進についてであります。

昨年度の韓国からの観光客数は41万人を超えました。順調な伸びを示していますが、私は対馬側の受入れ対策にいささか積極性に欠けると考えます。幸い韓国側の積極的な交流策に助けられての順調な伸びに甘えることなく、積極策が待たれていると思います。と申しますのは、交流はお互いに訪れたり迎えたりすることであって、現在の状況は一方通行みたいに終始してしまっていて、対馬からも親善使節などの派遣が必要だと思っておりますが、いかがですか。今まさに、対馬主体の交流策が待たれていると私は思います。

そこで、2例ばかりの交流事業案を提案してみたいと思います。韓国は儒教の国です。先祖先輩を大切にしてお国柄に鑑みましての提案でございます。

1例目は、訳官使船遭難者の慰霊祭の開催についてです。

訳官使は、朝鮮通信使招聘の回答や、対馬藩主の慶弔に対する使いとして、朝鮮国王から対馬藩に派遣された使節団でありまして、現在に置きかえますれば、対馬市長に対して韓国政府から派遣された使節団ということになります。中世の対馬藩は、日本国と朝鮮国のはざままで、こんな重要な役割を果たしていたわけですから、他の市町村からうらやましがられる歴史を生かさない手はありません。

訳官使は、およそ280年前、2代対馬藩主義成公の襲職祝賀の派遣に始まります。安政6年までの223年間に51回も対馬に派遣されておりました。

元禄16年旧暦2月5日、快晴の釜山港を総勢112名を乗せて出発した訳官使船は、急変した天候によって、鰐浦沖の南風ノ波瀬に座礁、沈没しました。そして、全員帰らぬ人となった歴史があります。

平成3年に、対馬と韓国の先遣顕彰会によって、韓国釜山が望める鰐浦の公園に顕彰碑が建立されました。毎年各国から多くの方が訪れて、手を合わせておられます。そろそろ対馬側も慰霊祭を開催して、対馬の心を示すべきだと思うのですが、いかがなものでしょうか。市長の御所見をお聞かせください。

2例目は、徳恵姫墳墓参団の派遣についてです。

最後の対馬藩主宗武志公の正妻であった朝鮮王朝の徳恵姫のお墓が、ソウル郊外の広大な朝鮮王朝の墓墳群の中にあります。対馬と深い関係になった徳恵姫の墓参は、韓国との親善交流には欠かせない事案と考えます。そこで、対馬から毎年墓参団を編成して派遣、さらに交流の輪を広げる事業はいかがでございましょうか。市長の御所見をお聞かせください。

次に、2点目の厳原市内の河川・道路の整備についてであります。

現在、韓国観光客を初め、たくさんの観光客をお迎えして対馬の玄関口厳原の町並みや景観を楽しんでいただいております。厳原独特の石垣群による町割、町中を流れる清流、そしてその水

面に映える柳、加えて整然と整備された幹線道路などを楽しんでもらえ、対馬に来てよかった、また来てみたいと喜んでもらいたいものです。

そこで、河川・道路の現状を言説しながら、その対策を提案します。ぜひ、市長のやる気満々の積極的な対応策をお示してください。

まずは、厳原本川の河口に位置する川端通りの柳並木の再生についてです。現存する柳の状況は上部は枯れ果てたままであったり、補植されている柳の木もあるものの、その成長ぶりは、いささかみすぼらしいものであります。決して満足できるものではありません。そんなに経費を要する事業ではございませんから、現存する並木を生かしながら、再生に向けての管理をすべきと考えます。いかがでしょうか。

次に、源泉混々の活用についてです。

前途の柳の並木が自然豊かな対馬の清流に映える景観は、誰しも心和むものだと思います。昭和30年代までは、あくまで澄み切った清流が流れておりまして、旧厳原町時代には、町の自慢の一つでもありました。現状はと申しますと、決して自然豊かな対馬の川の流れとは言えません。旧町時代には、自慢の景観を生かそうと、川端にかかる8つの橋をその景観にマッチさせる事業を展開したりしていました。治水の歴史については、およそ320年前までは、上見坂、権現山流域の水が、現厳原市内のほうに流れていたようで、集中豪雨のたびに市内は洪水に見舞われたそうです。

そこで、阿須川の開削の大事業は実施されました。結果、今度は厳原市内の生活用水が不足するようになり、およそ115年前の明治36年に阿須川上流の砥石淵に厳原本川に集水する源泉混々なるものがつくられました。以来、昭和30年代に浄水場が完成するまでは、棧原団地の上り口付近の上流では、飲料水にも利用したりするなどの清流でありました。

現在と申しますと、棧原の日新館門前の海峡口には、ほとんど水の流れはありません。この状況からして、源泉混々からの集水は機能していないものと考えられます。これでは、先人たちが築いたすばらしい治水の施設を無にしていると言わざるを得ません。

私も旧厳原町土木課に勤務した折には、昭和45年ごろまでは、大雨の警報が発令されるたびに水門の集水口を閉鎖し、水かさが引けば開くなどの管理をしていました。ところが、現在は、このような施設があること自体も忘れ去られているのではないかと心配しています。いずれにしても、この施設をしっかりと生かして、厳原本川を清流が流れる美しい川に再現を図るべきと考えます。いかがでしょうか。

最後の質問は、国道382号及び横町線の整備計画についてです。

厳原市内の382号と市道横町線の都市計画事業は、市民待望の事業で、その完成が待たれています。国道については、太平寺の墓地移転作業も始まったようです。電線の地中埋設後、拡張

工事に着手するやに伺っています。

横町線も大半の工事が完成して、郵便局の用地が残るだけのようですが、その詳細については明確にはわかりません。その両路線について、市民の皆さんも大きな関心事と思われる。せっかくの機会でございますから、今後の工程、完成時期について公表できる範囲で結構です。お知らせください。

まずは、今申しました大枠について質問します。詳細については市長の答弁の後行います。よろしく、積極的に。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 渚上議員の御質問にお答えいたします。

初めに、日韓交流促進策についてでございますが、1点目の朝鮮通信使復元船の対応策につきましては、先日の行政報告で説明しましたとおり、韓国の国立海洋文化財研究所において建造された朝鮮通信使船復元船が、ことしの8月に開催されます対馬厳原港まつりに来航することで、現在準備を進めております。

今回の復元船来航により、対馬厳原港まつりが一層盛会なものになるというふうに考えておりますし、国内外に「朝鮮通信使のしま、対馬」をアピールする絶好の機会になると思っておりますので、万全の準備と体制で臨みたいと考えております。

今回の復元船来航に伴う対応につきましては、まだ韓国サイドと調整中の部分もありまして、現時点での予定となりますが、8月2日に厳原港に入港、翌3日に市民を対象とした一般公募による体験乗船を数回計画し、4日の午前中に来賓、関係者の体験乗船、さらには復元船入港セレモニーを実施し、朝鮮通信使行列の出発につなげようとしているところでございます。

韓国内の大手新聞社等の報道や関係者からの情報によりますと、復元船を所有する韓国の国立海洋文化財研究所と復元船の運用の協力を行っている釜山文化財団では、朝鮮通信使の海の道を再現することを目指しており、ことしの対馬來航に続き、来年は釜山を出発し、対馬から大阪までの朝鮮通信使ゆかりの地を航海する方向で関係機関との協議が始まっているようでございます。具体的には、本年は前述のとおり対馬來航、来年には釜山を出発し対馬から大阪までの朝鮮通信使ゆかりの地を航海することが想定されております。

対馬市といたしましては、まずは今回の対馬來航を全面的にバックアップしたいと考えております。次年度以降の対応につきましては、非常に壮大な構想であり、現時点では、まだまだ未知数な部分も多いため、今後の韓国サイドの動向や意向などの状況把握に努めながら、NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会、関係自治体と連携をとりながら、対応については検討してまいりたいと考えております。

ともに朝鮮通信使事業をけん引し、ユネスコ記憶遺産登録をかなえた、財団法人釜山文化財団

と日韓の文化交流の象徴であります朝鮮通信使を再度国内外に広く知らしめるチャンスでありますので、実現に向けて最大限の協力をしてまいりたいと考えております。

当時、対馬藩が両国の国交回復と友好親善の一翼を担ったように、韓国側の今回の構想に対し、対馬が協力、仲立ちすることが、現在の対馬が果たす役割でもあると考えております。

2点目の対馬側からの交流促進策についてでございますが、訳官使船遭難慰霊祭と徳恵姫墓参団の派遣についての御提案であります。対馬韓国顕彰事業会によって、上対馬町、鰐浦の韓国展望所に朝鮮国訳官使殉難之碑が建てられ、厳原町の金石城跡に李王家宗伯爵家御結婚奉祝記念碑が建てられております。

そのほか7基の記念碑が島内に建立されており、記念碑に連日多くの観光客が訪れていることも承知しております。建立にかかわっていただいた顕彰会を初め、関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

朝鮮通信使の記憶がユネスコ記憶遺産に登録がなされ、現在対馬市としましては、朝鮮通信使によるまちづくり事業を推進しており、朝鮮通信使資料館整備事業、案内板設置事業や各種の朝鮮通信使のPR事業を着手、実施しております。

また、国際交流促進事業としましては、ことしは6月の23日に開催いたしました国境マラソン、今年度で3回目の開催となります。国境サイクリング大会や釜山広域市影島区、蔚山広域市蔚州郡との友好都市との交流事業、各種民間交流事業の支援など、対馬釜山事務所と連携をしながら、さまざまな角度からの交流事業を実施しております。

御提案いただきました2つの事業につきましては、朝鮮通信使に深く関係する事業でありますし、日韓交流を推進していく上で、大変意義あるものと考えますが、朝鮮通信使に比べて訳官使、徳恵姫の歴史に関する市民の認知度、理解度はいまだ低い状態ではなかろうかと思っております。

対馬市としましては、現在進めている朝鮮通信使の市民認知度向上の取り組みに合わせた形で、訳官使、徳恵姫の歴史を市民の皆様知っていただける顕彰事業を取り組みたいと思っております。

地域や民間からの機運を高めて、その上で実施主体となる団体やイベントの内容などを慎重に検討しながら、関係団体の皆様と実施の可能性に向けて協議をしてまいりたいと考えております。

日韓友好交流事業につきましては、観光施策の重要なキーワードと捉えていますので、議員の皆様御意見等をいただきながら、今後もさらに推進してまいります。

次に、厳原市内の河川・道路の整備についての1点目の厳原本川の景観整備についてでございますが、川端通りの柳並木は古くから城下町のシンボルとして観光客を初め、多くの島民の方の心に残る風情あふれる町並みを形成してまいりました。この柳は老木で、枯れた木は民間団体の御厚意で補植されていますが、枝が枯れている木も多く見受けられるようになりましたので、専

門家の指導等を受けながら、補植や枝打ち等適正に管理し、昔ながらの川端通りの景観を守っていきたいと考えております。

源泉混々につきましては、江戸時代に起きた巖原市街地の洪水の経験から、明治36年に建設された阿須川と巖原本川とを分水する石づくりの施設で、巖原本川にとっては、なくてはならない重要な施設であると思っております。施設が老朽化していることもありますので、総点検をしながら、この先人が残してくれた重要な財産を有効に利用し、巖原本川へきれいな水を流し入れ、川端通りのイメージアップにつなげてまいりたいと考えているところでございます。

2点目の国道382号及び横町線の整備計画についてでございますが、巖原市内の国道382号の整備につきましては、県において、現在、交通安全施設等整備事業で中村工区と宮谷工区を施工中でございます。中村工区は、平成23年度に着手しており、計画延長500メートルで幅員3.5メートルの歩道を、国道の両サイドに整備するものでございます。本年度は、事業費2億円で用地補償とブロック積み排水溝等の工事を実施する予定でございます。なお、中村工区におきましては、電線の地中化を図る電線共同溝整備事業もあわせて行っており、今年度は事業費1,200万円で、一部区間の工事を施工する予定と聞いております。

宮谷工区につきましては、平成26年度に着手しており、計画延長300メートルで中村工区と同様に、幅員3.5メートルの歩道を両サイドに整備するものでございます。本年度は事業費1億6,000万円で測量と用地補償等を実施する予定でございます。

両工区ともに現在も引き続き用地交渉を行っておりますが、未取得の土地が存在しており、完了時期は未定とのことでございます。

議員御指摘の景観につきましては、数年前の買収直後に雑草等が繁茂した状態もありましたが、現在は仮舗装等の措置を講じていただいているところでございます。買収済みの箇所につきましては、今後電線の地中化事業との調整を図り、計画に基づいて整備が進むものと思われませんが、早期に整備していただくようお願いをしましてまいりたいと考えております。

市道横町線につきましては、横町線は第3期巖原城下町地区都市再生整備事業の核となる事業として、平成27年度から施工中でございます。進捗といたしましては、巖原の郵便局周辺の工事及び無電柱化並びに照明などを除き、令和元年度中に完成する予定でございます。

郵便局との交渉の状況でございますが、今年度中に契約を行い、令和3年度の秋ごろまでには明け渡しを受ける予定で協議を進めております。これにより、横町線の完成は、令和3年度末を予定しているところでございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 8番、瀧上清君。

○議員（8番 瀧上 清君） ありがとうございます。1項目ずつ質問します。

朝鮮通信使の再現事業なんですけど、私一生懸命取り組みますというのはわかるんですが、具体策が見えてこないわけです。一つの提案なんですけど、私はやはり韓国サイドが復元船をつくって対馬に通信使、日本のほうに来るといふのであれば、日本側も対馬藩の先導、護衛したら、船を再現して出迎えて大阪まで先導、護衛する。そして、使わないときには、昔のとおりお船江にそれを展示する。非常に友好的な事業かと思うんですけど、決して対馬市でやれと言っているんじゃないんです。韓国が国であれだけ力を入れるのであれば、国対国の交流として、国のほうで何か事業できないかというふうに思っているんですが。

それで、僭越でしたけど、昨年韓国の造船現場を見た折りにそんな話聞きましたから、昨年8月でした。当時議員だった舩越洋一議員と私は長崎に谷川代議士が帰って来られるのを探って、「ちょっと国としての取り組みを何か研究してくれ」ということを申し入れに行きまして、「せっかく長崎までそんなに力を入れてやってくれるんだから、俺も研究してみようよ」ということでしたんで、これはもう議員が頼む話じゃなくて、議員は橋渡しの役をただけなんですけど、行政としてそんな具体的な何か計画されることがないか、この辺もちょっと後でお聞かせください。

それから、訳官使船、徳恵姫の事業については、交流には必要な事業だということは認識されておるようですが、市民にその辺を啓蒙する意味でも、そういう勉強会だけじゃなくて、現にそういう事業を展開して教え込んでいくというのも一つの方法かと思うんで、ぜひ積極的に計画に向けて進んでほしいと考えます。

雨森芳州は誠信の交流ということで言っております。現在にもそれはそのまま当てはまると思いますので、この事業は非常に心ある事業だと思いますので、ぜひ取り組みをお願いします。

まず、その点について御所見があればお聞かせください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず1点目の復元船の件でございますけども、昨年今議員がおっしゃられたように、舩越議員とともに長崎のほうに行つて代議士のほうにお願いをしてきたということは伺っておりました。

我々行政といたしましても、市でこの復元船をつくるということは、財政的にも大変きつことでもありますし、つくった後の管理がなかなか大変だろうということで、市といたしましては、なかなか厳しい状況でございますけども、国のほうには何とかお願いをしていきたいと思っておりますけども、今現在、この部署がどの部署になるのか、そういったところから、ちょっと研究をしてみたいというふうに思っております。そこでまたチャンスがあれば、話を進めていきたいというふうに思っております。

それと2点目の、この徳恵姫の墓参の件と訳官使の件でございますけども、先ほども答弁いた

しましたように、まだまだ認知度は低いということは言われておりますけども、日韓の交流促進のために、市がなかなか直接前に出てすることは難しいとは考えることから、顕彰事業会とかいろいろな団体等と協力、協議しながら進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 8番、淵上清君。

○議員（8番 淵上 清君） よくわかりましたが、市長、やる気は見えるんですけど、今からいろいろ考えてみるんじゃ、来年の話なんです、来年からの話なんです。船は来たが、まだどこが担当部署かわからんものですから何もしておりませんじゃ、行政として責任を果たしているとは言いがたいです。だから、即決してもいいじゃないですか、どこどこ部署、そういうのをちゃんと検討しなさいとか。

まずは、一つの例として、先導船の話したんですが、そういうことも含めて、国としての対応策は何かとれるか、どういう方法が考えられるか研究してみてくださいと頼んでいるんですから、執行権のある市長側が動かれんと、先に進みません。ぜひ、積極的にその辺をやらんと、やろうと思ったら時がもう過ぎてしもうとったんじゃ、何の意味もありませんから。あなたの任期は来年のちょっとしかないんです。今決めにゃどうする。ひとつ積極的にそれ進めてください。

それから、川端のあれですね、それ自体柳の木あたりはもう、そうする以外ないと思いますから、そんなに大きな予算のかかるもんじゃないですから、やる気の姿を即見せていただいたほうがいいと思います。この状況は市民みんなも言っていますから。市長、選挙すぐそこなんですよ。あなたはもう選挙の結果においては、何も言えんことなるかもしれん。どんどん先の事業展開できるように、市民にしっかりやる気を見せてやってください。

それから、国道、県道の件はおよそわかりました。ただ、整然とした道路の期待が大きいだけに、もう何年になりますか、用地が終わってから、雑然としてどうかしたらキツネカタヌキが出てきそうな雑草の森がありますよね、道路際に。あんなことを含めて、一日も早い完成、長引くようであれば、あの辺だけでも地主と相談して除草して、再び生えてこんなような除草剤があるじゃないですか。ああいうとをまかせてもらうとか、何らかの方策を、市の土地じゃないからじゃなくて、余りにもみすぼらしいです。ぜひその辺を考えてください。

源泉混々については、話聞きますと、集水口はあいているそうですね。あいとって、出口では水が全く見えないということは、詰まっているかどっかで漏れているかということになります。だから、集水口をしっかり見ると、水が流れよって、吸い込みよれば途中で漏れている、とまっておればどっかが詰まっているということになりますよね。だから、これ現市長の責任において、早急にやってほしいんです。あのきれいな水を巖原方面に流してください。しっかり調査することですから、調査もゆっくりしとったら、この状況がずっと続いているんですから、いい機会です、やる気を見せてください。



丁寧過ぎる御回答いただいたもんですから、時間が足りなくなりました。最後に、一つ注文したいことがあるんです。この質問をするに当たっていろいろ考えてみると、何か源泉混々みたい、今の行政から忘れ去られた施設が全島に幾つもあるんじゃないかなと思うんです。それはもう経過はいいです。これだけ広い地域を合併によって自分の守備範囲ががと広くなって、以前のことはわからん人がずっと来るんですから、引き継ぎをちゃんとすること。そして、あと川端に霧状の噴水が出る施設があることわかってありますか。ところが、1回も使われたことないですね。私は忘れ去られたと思うとったんです。わかってあればいいんですけど、そういう施設が全島で幾つもあるんじゃないかなと、その辺の再点検を要望して、先人たちが残してくれた貴重な財産を大いに活用して、すばらしいまちにしてほしいと思います。それを要望して、3分も余らせてやめます。ありがとうございます。

○議長（小川 廣康君） これで、洲上清君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩します。再開は2時5分からといたします。

午後1時48分休憩

午後2時03分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

報告します。洲上清君から早退の届け出があっております。

引き続き、市政一般質問を行います。6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） こんにちは。一般質問を2件ほどお尋ねいたします。

1点目は市民が多目的に集える憩いの場所としての施設を開設していただきたいと思います。その中身としましては、旧いづはら病院敷地内に市民の健康保持と市民相互の交流を図るための拠点とした施設ができないか、お尋ねいたします。

2点目は、ケーブルテレビの放映のあり方について、お尋ねします。

そしてその1点目といたしまして、去る4月7日の県議会議員選挙の開票の放映について、皆さんも頭の中にあると思いますが、なぜあのような放映になったのか、お尋ねいたします。

そして、2番目にケーブルテレビ番組表の表示の仕方と内容の充実については、NHKや民放の放送番組は、新聞やテレビの番組表でも時間や内容が記載されていますが、ケーブルテレビにはそれがありません。それは仕方のないことだとは思っておりますが、記載されているのは、つしまる通信とコミュニティインフォメーションの記載のみであります。せめて、テレビの番組表には放送する中身があるわけですから、その内容を記載すべきだと思いますが、いかがでしょうか。この2点についてお伺いいたします。